

まえがき

第46巻（第1・2合併号）の発刊にあたり、ご挨拶させていただきます。

2021年もコロナ感染対策に取り組みながらの一年となってしまいました。創価大学では授業や会議はオンラインが中心という状態が続きました。学友とともに授業に参加し、学び、語り、遊ぶという機会を奪われた学生のことを思うと胸が痛みますが、そのような環境下でもできることに挑戦しようと思いを向くことが大切だと思います。

当学会でも、久しぶりに講演会活動を行いました。新入生歓迎講演会として私もお話しさせていただき、さらに倉橋会員、フィスカールセン会員にも講演いただきました。オンラインでの開催ではありましたが、学生の皆さんに“大学らしさ”を少しでも味わってもらえたのではないかと思います。講演内容は本誌に掲載されていますので、どうぞご覧ください。

本誌の編集を進めているさなか、ロシア軍がウクライナに対する軍事行動を開始しました。残念ながらロシア・プーチン大統領の指揮する軍事行動は、自ら“兄弟国”とも呼ぶウクライナの人々の尊厳と自由を蹂躪するものと言わざるを得ません。一方で、プーチン大統領にはこれを正当とする思想・論理があり、これを是とするロシア国民もいるということもあります。（「プーチンの戦争」に反対の声をあげるロシア国民が少なからずいることも報道されています）

前回の本誌発刊の挨拶で、〈「尊厳をもって生きる自由」をいかに実現していくかをより真摯に追究していく〉ことに取り組みたいとの所信を述べさせていただきましたが、ウクライナの問題は「尊厳」や「自由」をめぐる対立が極めて困難な状況を生み出すことを痛感させます。今回は岩木会員による戦争観・平和観に関する論考が寄せられていますが、多様な価値観の共存をどのようにして可能にするかを考える機会を与えてくれるものと思います。

本誌掲載の論説が読者の皆様の思考の発展に有益なものとなれば幸いです。

玉井秀樹

2022年2月28日記